

門は開かれる

ルカによる福音書 11:1-13

イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。

『父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

わたしたちの罪を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。

わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」

また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』すると、その人は家の中から答えるにちがいない。『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える

父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

説教

主の祈りは5つの祈りの組み合わせです。

1. 父よ、御名が崇（あが）められますように。
2. 御国が来ますように。
3. わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。
4. わたしたちの罪を赦してください。
5. わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

祈りの構成は1、2が神さまについての祈り、3、4、5がわたしたち人間についての祈り、という二部構成です。

マタイ福音書の6章にも主の祈りを紹介する箇所があります。

あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思い込んでいる。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。マタイ 6:7-8

マタイは神は必要なものはご存じだから簡潔に祈りなさい、とっていますが、ルカは違う意見をもっているようです。ルカの福音では「主の祈り」のあとにたとえ話が続きます。夜中に隣人の家にパンを借りに行き断られる、それでもしつこく頼めばなんとかなる、というたとえです。

ルカは11章でしつこく祈れとっていますが、マタイは6章でサラッと祈れといます。福音書にはなにかべつの意味があるのか？あっさりか、しつこくか、どうすればいいんだ、聖書を読んでいるとこんな困り事ががしばしばおきます。

こんなときわたしは、しつこく祈ろうが、あっさり祈ろうが神さまは気になさらない、自分たちそれぞれの好きな祈り方でいいと解釈しています。

「主の祈り」の意味を忘れてしまっても理解していなくても構わない。もっ
とつっこめば、祈りの文言を忘れてしまってもしかたがない。たとえモゴモ
ゴ言っているようにしか人には聞こえなくてもいい、それでもちゃんと聞き
入れてくださる方はおられる。必死の思いは聞き入れられる。

だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。ルカ1
1:10

これがイエスさまの教えてくださった祈りの神髄であり、救いのみことばで
す。
